



目指せ！日本ジオパーク認定

第10回記念東経130度喜界島マラソンジオクイズとジオツアー！

喜界島ジオパーク推進協議会 統括専門員 鈴木倫太郎



4月14日に開催された、第10回目の東経130度喜界島マラソン。今年は大大会の名前の前に「目指せ！日本ジオパーク認定」の文字が入りました。私たち喜界島ジオパーク推進協議会事務局は、マラソンに参加いただく方々にジオパークについて知っていただきたいと考え、鹿児島県内の桜島・錦江湾・霧島・三島村鬼界カルデラの三つのジオパークについて紹介するポスターコーナーを設置しました。さらに、喜界島ジオパーク（構想）の名を広め、ランナーの方にもジオパークに親しんでいただきたいという思いから、喜界高校に通う6名のサン

ゴ留学生たちにジオクイズを考えてもらいました。クイズは全部で17問。マラソンコースの全てのエイド（給水所）で、喜界高校の生徒さん達のお力を借りて、問題を出してもらいました。多くのランナーたちが、エイドに立ち寄るごとにクイズに挑戦してくれたようで、参加者からは、「全てクイズに答えてみたわ！」「といった声や「問題について質問していろいろお話できました」などの感想をいただき、走りながらクイズを楽しんでいたのだとともに、島の方と交流する良いきっかけにもなったようです。クイズを考えてくれたサンゴ留学生2年生の皆さん、ありがとうございました！

また、私たちは島外からのお客様が多く来島するこの機会に、ぜひとも喜界島のすばらしさを知っていただきたいと考え、「段丘を愛でる！」と題したジオツアーをマラソンの翌日に開催しました。このツアーは、喜界島が世界に誇る隆起サンゴ礁段丘を巡るツアーで、ジ



オパーク推進協議会の外内副会長と私がガイドとして付き添い、嫌というほど段丘や島の素晴らしさを語りつくすという内容です。ツアーでは島の各所を巡り、勇壮な段丘の姿を眺めて感嘆し、島の成立が解る地層を観察しながら地球の歴史に思いを馳せ、島の食材をふんだんに使った「ジオ弁当」に舌鼓を打ち、島独自のサンゴ礁文化に島民の叡



知を学ぶ盛沢山の内容でした。ツアーに参加してくださった方からは、「何も知らないで島を回るよりも、とても良かったです！」「来年もぜひ参加したい！」「という嬉しい感想をいただきました。

今回のマラソンでは、実行委員会をはじめとした島の方々のご協力をいただき、多くの方に喜界島ジオパーク（構想）を知っていただくことができたと思います。来年もジオパーク推進協議会として、マラソンをさらに盛り上げられるよう、様々な楽しい取り組みを考えていきたいと思います！ランナー、実行委員会、ボランティア、そして応援してくださった島民の皆様、お疲れ様でした！